

第1回 昭島市事務事業外部評価委員会

議事要旨

〔日 時〕 平成25年6月26日（水）18：30～20：00

〔場 所〕 昭島市役所 3階 庁議室

〔出席者〕

1 委員

佐久間榮昭委員、出雲明子委員、松本智子委員、村上龍男委員、山田諭子委員、和田篤彦委員

2 事務局

北川市長、早川企画部長、佐藤企画政策室長、板野財政課長、進藤企画調整担当主査、吉野企画調整担当主任

3 傍聴者 なし

〔配布資料〕

- ・第1回事務事業外部評価委員会 次第
- ・事務事業評価の概要について（資料1）
- ・平成25年度 外部評価候補事業一覧（資料2）
- ・平成25年度 外部評価候補事業 内部評価シート（資料3）
- ・平成25年度 外部評価候補外事業一覧（資料4）
- ・事務事業外部評価委員会委員名簿（資料5）
- ・事務事業外部評価委員会要綱（資料6）
- ・平成25年度 外部評価委員会実施予定（資料7）

〔議事要旨〕

1 市長あいさつ

外部評価の実施にあたり、委員会設置の趣旨や委員への期待が述べられた。

2 委嘱状交付

市長より各委員に委嘱状が交付された。

3 自己紹介

各委員及び事務局職員の紹介が行われた。

4 委員長及び副委員長の選出

委員の互選により、委員長に佐久間委員、副委員長に和田委員が選出された。

5 事務事業評価の概要について

6 外部評価候補事業について

事務局より、市の事務事業評価の概要及び平成25年度外部評価実施事業の選定等について説明が行われた。

《質疑応答》

◆選定するのは何事業か。【松本委員】

○10事業程度と想定している。したがって各委員から5～10事業を候補として挙げていただきたい。【事務局】

◆前年は一課1事業までで、各部で偏りがないようにとのことだったが。【松本委員】

○各部署の負担を考え、できれば同じ課から複数の事業を選定しないよう、ご配慮いただきたい。【事務局】

◆例えば高齢者福祉センター管理運営が2件、候補事業一覧に掲載されているが、別々に審議するのか。【松本委員】

○関連事業として一緒にご審議いただければと考えている。【事務局】

◆それでは、各自、候補事業及びその選定理由を7月5日までに事務局にご報告いただきたい。【佐久間委員長】

7 その他

事務局から、今後の委員会の日程について説明が行われた。

最後に、和田副委員長から事業全体について意見があり、意見交換を行った。

◆昨年の、事務事業外部評価で、気づいたことがある。1点目は、例えば、児童遊園や遊び場の管理、災害対策事業と木造住宅耐震補助事業、また、勤労商工市民センターと公民館の運営など、市民感覚では、いっしょにできそうなものを別々のセクションで対応している。ソフト面を運営する部署がハード面を管理するという縦割り方式の仕事の展開の仕方に違和感を覚えた。まとめて管理することでコストを下げるという考えもある。これに共通する考えとして、各部署で発行している情報誌等について、それを広報紙の配布時期にあわせて発行しコスト削減を図るといったことなどもあると思う。事務事業を適切に評価することは大事だが、仕事の進め方、あり方を検討していくのも委員会の役割ではないか、仕事の在り方についての意見交換も必要であると感じた。

2点目は、外部評価を実施する際に内部評価を参考にしているが、内部評価の評価基準が必ずしも統一されていないようだ。統一的な基準がないことで単なる自己評価に終わってしまい、汎用的な活用が困難となっている。こうした中で、年度ごとの具体的な数値目標がない事業の達成度を内部評価しても、各課それぞれとなってしまう。現状の内部評価の在り方についても外部評価との連携で意見交換すべきではないだろうか。今年度は昨年度方式で評価を行うことに異論はないが、次年度以降も続けるならこれらについてご検討いただきたい。【和田副委員長】

◆和田副委員長の意見の前半部分、縦割行政の事業の在り方については同じように感じている。ただ新

たなフレームワークをすとなると評価者の域を超えてしまい、難しい面もあると思う。また、後半部分の外部評価と内部評価の連携の大切さについても同様に感じている。評価者は評価を言いつばなし、事業担当側は受けつばなしで、ある意味一方通行なので、評価したその結果に対しもう少しコミットメントできるやり方を取っていただきたいと感じた。【村上委員】

○和田副委員長のお考えについては真摯に受け止めていきたい。

1点目について、結論は出ていないが、児童遊園、都市公園の管理を同一部署で行う方向で検討を進めている。また、勤労商工市民センター、市民会館・公民館については施設の在り方、指定管理者制度の導入も含めて検討段階である。事務事業は基本的に目的別に分類した予算の中での捉えており、財源という観点から成り立っているため、それらを含めて事業が分散していると思われることについては、関連性を持たせて組織を改正していくしかないという考えを持っている。

配布物についてもご指摘の通りで、不定期な刊行物に関しては契約時点でのずれが生じてしまうこともあり、予算編成の過程で財政課を中心にコスト削減へ向けての努力は行っているが、成果として表れていない現状である。

次に建物の管理について、公共施設は目的をもって建設しており、作り込みと運用が一体という面もある。一括で行うことによるコスト削減という考えもあるのは承知の上で、設備面と運用面を切り離せない部分もある。一方で、例えば複写機などの事務機器のリースについては契約の相手方の選定にあたり契約時期を合わせて一括で行うなどの取組みは従来からさせていただいている。

今後、施設の老朽化にも対応していく必要があることから、いわゆるファシリティマネジメントの考え方に基づいた対応にも取り組んでいる。現在は施設の維持補修については実施計画に基づき行っており、当然、その中だけではなく、専門家の意見も取り入れている。かつては建物管理をまとめてという考えもあったが、今ある施設全体の現状をとらえた上で取り組む必要があり、難しい面があることに対してご理解いただければと思う。

今後とも、頂いた意見を真摯に受け止め事業を進めていくので、活発なご議論を行っていただきたいと思う。【事務局】

◆できることは検討を始められているという点は理解できた。要は縦串で行われていることに対して、横串も必要あるのではないかと提案であり、加味していただければと考えている。【和田副委員長】

○内部評価の基準についてはご指摘のとおりだと思ふ。先ほど申し上げた通り、担当課である企画政策室は各課とのヒアリングはまだ行っておらず、これから企画政策室で調整し、各課間で差異が出ないように取り計らっていくよう努力させていただくつもりである。【事務局】

◆行政の担当者と外部の委員とは立場が多少異なり、そうした外部の委員が事業を見て評価を行う、そういう委員会である。行政の事業の在り方については、法令に定められ、市ではどうしようもない面もある。それはそれとして、われわれはこれまでの経験や感覚から事業を見ていきたいと思う。それではここで閉会とする。今後よろしくお願ひします。【佐久間委員長】

～閉会～